

水の流れる心癒し、ガーデンに楽しい変化をつけてくれる

厳密には「マテリアル」というくりに入らないかもしれませんが、「水」という素材も私には非常に重要なガーデンの要素です。人間の身体の70%は水であり、すべての生命のベース。水が身近にあると人はくつろぎ、そこから発するマイナスイオンのエネルギーをもらうことで心身ともにリフレッシュできます。ですから私は、ガーデンづくりにはできるだけ水を採り入れるようにしています。

池でも、噴水や小さな滝でもいい...水の動きは庭に視覚的な変化をもたらしますし、水音やしぶきは涼しさや爽やかさを演出してくれます。滝なんて予算がなくてつくれない.....と思うかもしれませんが、そんなことはありません。日本には竜安寺の

石庭のような「見立て」の伝統があります。そのように、たとえばコンクリートの階段と石で「滝」の流れを表現するというのもできるのです。

それに水辺は噴水や立水栓、吐水口など、オーナメント使いに工夫がこらせる場所。水の動きにはかならず注目が集まりますから、ユーモラスな動物をあしらった噴水や、デコラティブなテラコッタの吐水口など、遊び心のある演出を心がけています。



川口市立グリーンセンターの秋の鑑賞会・植栽展示に出品された、リュックさんのオリジナル。ブロンズのように見せた樹脂製。両手の間に穴があいていて、そこから水が出るようになっている。吐水口もこんな仕掛けがあると、ストーリー性がある楽しい。



池の真ん中で3匹のカエルが囲む噴水。カエルのしぐさがユーモラスで、遊び心いっぱい。カエルたちがどんな会話をしているのか、童心に戻ってそんな想像をしながら水の流れを楽しめそう。



口から水が出てくるオーナメント。素朴な感覚のテラコッタ製で、カナダから輸入したもの。こういうクラシックなデザインのものがあると、庭にぐっと趣と奥行きが増す。



枕木をつないだデッキのところどころに穴をあけてタマシダなどを植え込み、カラフルにペイントした石の顔と手をつけたもの。デッキと植物だけでなく、こういった遊び心が加わると、ワクワクするような楽しい空間に。

驚きや想像力を呼び起こすスカルプチャーで、公園を楽しい思い出の場所に

日本の公園や公共のガーデンは、全国どこも同じで平凡な印象を受けます。ツツジの庭園、それは素晴らしい! でも行ってみるとこのツツジ園も変わりばえしません。日本は南北に長い気候も違いますし、街の歴史も異なるのですから、それぞれの地域に合ったオリジナリティの高い演出を考えたほうがいいと思うのですが。

公共のガーデンを、ただ整っただけのつまらない空間にしないためには、想像力をふくらませるストーリーや、思わず微笑んでしまうようなユーモアの要素が大切ではないかと思います。そこで私は、スカルプチャーを用いて、そういった「遊び心」を表現するようにしています。

たとえば、アクアラングを装着した魚.....こんなスカルプチャーが公園の一面に置かれていたら、子どもたちはどう感じるでしょうか。「なぜアクアラングしてるの?」「あ、魚は水の中じゃないと苦しいんだ」「どこから来たの?海に帰りたい?」そんなふうに空想を紡いでいくでしょう。あるいは、塀に片腕をめぐりこませてしまった少年のスカルプチャー。それを見た子どもたちは、「塀の裏側はどうなっているんだろう?」と気になって必ず裏を覗いてみることでしょ。そして、そこから突き抜けている腕とサッカーボールに驚き、納得し、その不思議な世界を楽しむのです。

こういった楽しい仕掛けは、訪れる人たちとく

リュックさんが考案した公園のスカルプチャーたち



魚がアクアラングをしょっています。「そっか、僕らが海の中で息ができないように、魚は陸だと息ができないんだね」まわりを取り巻いた子どもたちのそんな声が聞こえてきそう。想像と意外性が楽しい。



塀のなかにめり込んでしまった腕。塀の向こうはどうなっているんだろう?子どもならどうしても覗いてみたくなるはず。不思議なファンタジーの世界に連れていってくれる。



に子どもたち)に強烈な印象を与え、そのことによって公園が楽しい思い出の場所になるかもしれません。そして、そんなスカルプチャーと出会った公園を、大人になっても「あそこには不思議な魚がいたっけ」「あそこには、サッカーしてる少年がいた」と懐かしく思い出すのではないのでしょうか。その子どもたちが大人になったら、自分の子どもを連れてもう一度来たいと思う.....そういう公園をつくりたいですね。

ですからスカルプチャーは、現在の公園によく見

られるありきたりの胸像や抽象的な幾何学作品では、無難すぎて面白くありません。たとえば、私の母国ベルギー出身の女流彫刻家、ニキ・ド・サンファール...彼女の作品のようなカラフルでグラマラスで生命力に満ちたものを置けば、楽しさや暖かさが伝わってくると思います。

あるいは前述したようなユーモアやストーリー性のあるスカルプチャー。そういった「楽しくて元気なもの」「オリジナリティのあるもの」「想像力をかきたてるもの」を置きたいのです。



花壇のデザイン画。ピンクのイルカが泳いでいる様子を、花の苗で表現。イルカの部分はピンクと白のペゴニアを植え込み、まわりは芝生やアイビー、ブミラなどを。



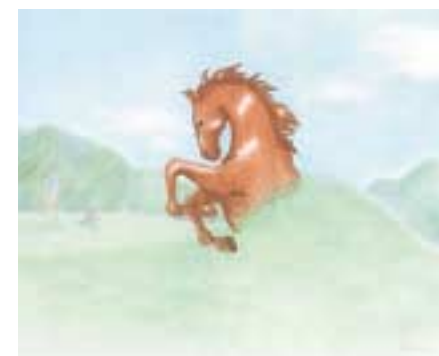
新しいコンセプトのガーデンにもチャレンジ

さて、ガーデンはこれからどんな方向に行くのでしょうか。現在、世界では、非常にシンプルなものなガーデンが注目されています。母国ベルギーでも、広い場に実なる木と芝生だけ.....という庭園があります。“余分な要素をそぎ取って、石と少し

の植物だけで構成するシンプルなガーデン” “斬新な形状の壁とか、コントラストの強い色などを組み合わせたモダンなガーデン”...これからは、こんな新しいコンセプトのガーデンにもチャレンジしていきたいと思っています。



「東京砂漠」をイメージしたというアイデア。歩道の敷石の1枚をめくったら、そこにはあふれる花と緑が、味気ない都市の真ん中にこんなオブジェがあったら楽しいし、文明に対するメッセージも感じられる。ぜひどこかで実現してほしいもの。



土の中から生まれ、まさに跳びはねようとしている馬のオブジェ。自然公園の一角にこんな場所があったら、子どもの想像力がかきたたられ、いつまでも思い出に残る場所になりそう。